

授業科目 吃音演習

【担当教員名】 長澤泰子		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修・選択	必修
		単位数	1	時間数	15
【＜概要＞又は＜一般目標：G I O＞】 吃音の評価・診断・セラピーについて演技演習をする。その過程において、吃音を持つ成人や幼児・児童・生徒に出会ったとき、①戸惑わない、2 ない、②クライアント（親も含め）のニーズを知る、③吃音研究で明らかになっていることを伝達する、④実際にどもることをロールプ レイや現実の場で実践する。					
【＜学習目標＞又は＜行動目標：S B O＞】 1. コミュニケーションの真の意味を理解すること。 2. 吃音の改善は話し方の改善だけではないことをしること。 3. セラピー理念を持つこと。 4. 面接場面で親とのやりとりや、吃音を持つ人とのやりとりをおそれないこと。 5. 言友会など、吃音を持つ人達のセルフヘルプグループの役に立てること。つまり当事者の土俵で勝負できること。					
回 数	授業計画又は学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
	1 オリエンテーションおよび「吃音」で学んだことの確認をする。 2 吃音を持つ人との出会いを計画する（言及会・参加など）。 3 VTRなどを使用し、様・症状やセラピー法を学ぶ。 4 吃音の実習をおこなう。ロールプレイで吃音・児の親や吃音を持つ人の役を演じる。 5 宿題として、実際に店で買い物などをし、その時感じたことや観察したことをレポートする。 6 流暢性改善のために必要なこと確認し、コミュニケーション態度や自尊感情等についても話し合う。 7 教科書を参考にして、学童の吃音セラピーの演習をおこなう。				講義および演習 講義および演習 講義および演習 講義および演習 講義および演習 講義および演習 講義および演習
【使用図書】		＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書 （必ず購入する書籍）		学童期の吃音指導	長澤泰子訳	大揚社	1998年・1800円
参考書		どもりにかんするQ&A, こどものどもり			言語障害児を持つ親の会 各300円
その他の資料					
【評価方法】 ①授業参加態度 ②レポート提出状況		【履修上の留意点】 講義を聴くというより、積極的に演習に参加し、自ら疑問を持ち、その軽欠手段を 模索することが望まれる。			